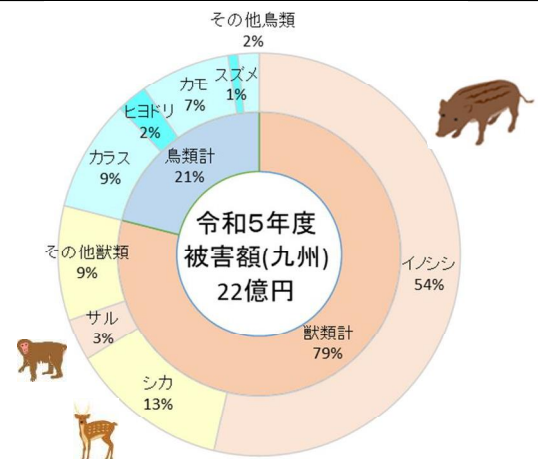
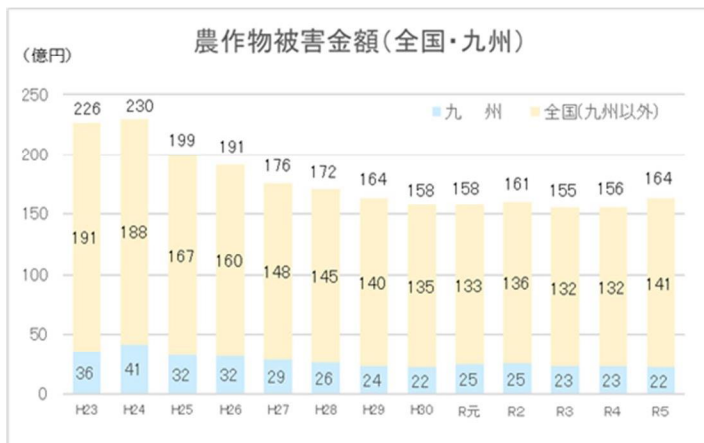


## 野生鳥獣による農作物被害の状況

- 令和5年度の全国の野生鳥獣による農作物被害額は164億円。
- 九州の農作物被害額は 22億円で、イノシシによる被害額が12 億円と全体の約5割を占めています。
- 鳥獣被害は、営農意欲の減退、耕作放棄地の増加等をもたらし、被害額として数字に現れる以上に農山漁村に深刻な影響を及ぼしています。



イノシシによる水稻の踏み倒し



シカによる水稻の食害



イノシシによるねぎの掘り起こし



イノシシによるみかんの食害

## 野生鳥獣による農作物被害対策

- 鳥獣被害対策として、①鳥獣の侵入防止(柵の設置)、②生息環境管理(放任果樹の伐採、刈払いによる餌場・隠れ場の撲滅)、③鳥獣の捕獲 を総合的に実施しています。



侵入防止柵の設置



緩衝帯の整備



箱わなで捕獲されたイノシシ

## ジビエ利用の推進

- 年間130万頭捕獲されているイノシシ・シカは、これまで廃棄されていましたが、捕獲された鳥獣を地域資源(ジビエ等)として利用し、農山村の所得に変える取り組みを推進しています。
- ジビエは、レストランや宿泊施設、学校給食、ECサイトでの販売のほかにも、ペットフードでの利用も進んでいます。
- より安全なジビエの提供と、消費者のジビエに対する安心の確保を図るため、国産ジビエ認証制度が制定されており、令和7年8月現在、32施設(九州10施設)が認証されています。



処理作業



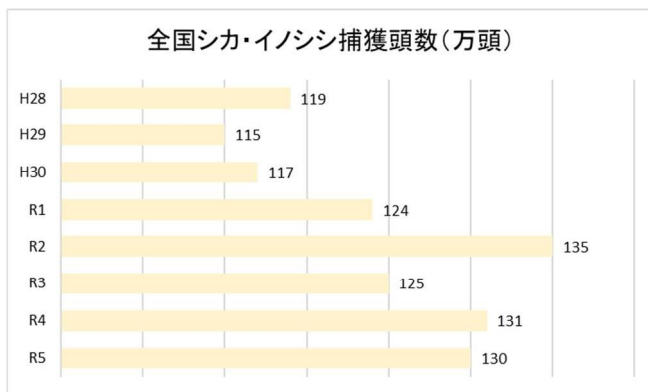
ジビエ



学校給食



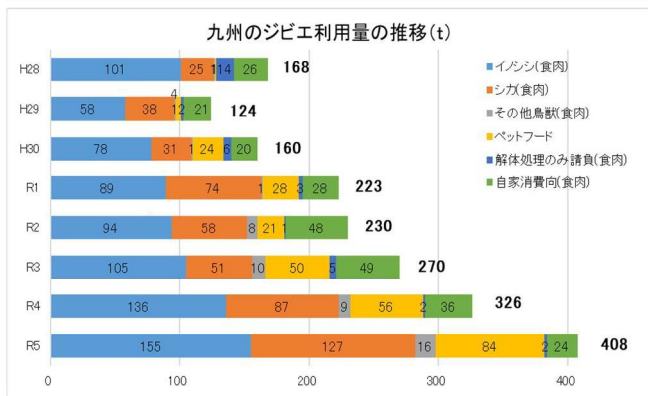
ペットフード



国産ジビエ認証のマーク



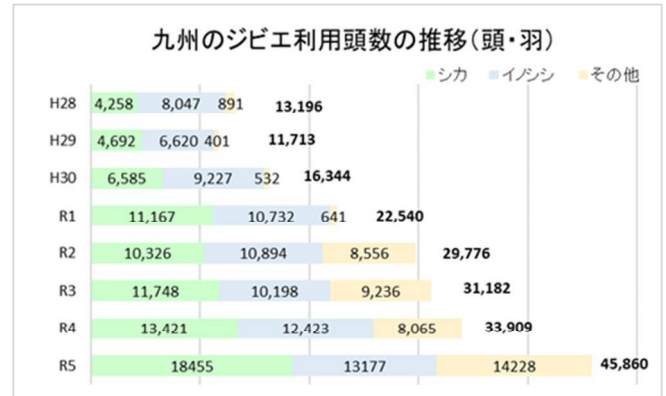
全国ジビエフェア



(参考)農林水産省HP

○鳥獣被害の現状と対策

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/240605.html>



○捕獲鳥獣のジビエ利用を巡る最近の状況

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/suishin.html>

